

1. 中学部の基本的姿勢

1. 中学部経営の基本的姿勢

中学部の指導は、小学部での身辺自立・基本的生活習慣の確立をめざした自立化を中心とした指導の強化・拡充と取り組む中で、高等部での職業化を中心にした指導の準備としての指導が模索されている。

このことは、中学部の存在が小学部から高等部への橋渡しの存在と見られがちであるが、決してそうではない。義務教育の最終段階としての、社会的な巣立ちを目標をもって、本校の独自に開発した段階別教育内容表を具体化しながら日々実践と取り組んでいる。

小学部が自立化を重点に置き、高等部が職業化に重点を置くという表現をするなら、中学部では、社会化を中心に置く指導とすることができる。

社会化を目指す子ども達は、「友だちと一緒に生活する子」であるという考えに立って、少しでも集団の中で活動できるようになることを念頭に置いて、指導計画を立案し、生活を大切にしたい指導を心がけている。

以上の事柄を具現するために、中学部では、次の2点にしばらく指導の重点を考えている。

- (1) 日常生活（社会生活）に必要な基礎的な事柄を素直に表現するようになる。
- (2) 仕事や運動に力いっぱい取り組んでいく。

2. 中学部生徒のめざす人間像

精神薄弱教育では、それほど長い歴史の中ではないが、いつも「何を」「どのように」「何のために」指導するのかが模索され続けてきた。それは丁度、振り子が往復するような議論で、いっこうに進歩がないようである。今でも、精神薄弱教育ではその傾向がないとは言わないが、現実にはめざす目標がなければ、指導に一貫性を欠くことになる。

そこで本校の中学部では、創設以来一貫して、「生活の中で生きて働く力を身につけた子」の育成をめざし、指導と取り組んできた。

「生きて働く力」を一口で説明することは難しいが、『学習した事柄を単に理解させているだけでなく、生徒自身の生活の中で確実に身につけて役立っている姿』の中に、その本質を求めることができる。

したがって中学部の学習形態は、生活を重視する「生活単元学習」と「作業学習」が中心となり、指導内容は生活の拡充・深化という観点から精選され組み立てられることになる。

以上、中学部のめざす人間像について述べたが、中学部の各学級では、生徒個々の発達の様相を細かく分析し、現時点で「何を」「どのように」指導していくかについて、重点目標を設定して指導している。

3. 中学部の学級経営の基本姿勢

昭和63年度における中学部の学級経営の基本方針を次のように話し合っ